

第 15 回とやま未来創造県民会議における主な委員御意見

- ・基本目標 1～3 に跨がる内容となるが、女性活躍をさらに推進していくにあたり、富山県における社会規範や意識のアップデートを進めていく必要があると考える。依然として、女性が主として育児を担うべき、男性が主として家計を支えるべきといった従来型の価値観も残っている側面があるのではないかと考える。これまで主に男性視点で構築されてきた社会に対し、女性視点から新たな価値やサービスが創出されていくことは、地域の多様性や持続可能性を高め、結果として地域全体の豊かさの向上につながるものと考えます。民間企業における管理職・専門職における女性比率の向上はもとより、県としても女性活躍を積極定期に推進していく姿勢を可視化し、「女性が活躍している県」であるという土壌を醸成していくことが重要ではないかと考えます。例えば、県庁における女性管理職比率についても、目標設定や進捗の可視化を進めていくことを期待します。
- ・KPI68「審議会における女性委員の割合」については、意思決定の多様性の確保やロールモデルの創出の観点からも、下限目標は 50% 以上とすることが望ましいと考える。これまで男性比率が高かった経緯を踏まえると、女性比率が高い審議会が増えていくことも、社会全体の意識変容を促すうえで意義があると思う。
- ・KPI54「県内に自信をもって誇れるものがたくさんあると思う人の割合」が 30% 程度に留まっている点について、移住者である私の視点からするととても意外に感じた。富山県には多くの魅力があり、その暮らしが「当たり前」であること自体は素晴らしいことだが、その一方で、魅力の深掘りや見方の更新が十分に行われていない可能性があるのではないかと考える。地域の魅力の再発見や再編集は、県民のイメージブランディングにつながり、シビックプライドの醸成にも寄与すると考える。また、深掘り・更新された魅力は対外的な情報発信の質の向上にもつながり、結果として富山の魅力をより多くの方に伝えることができ、UJ ターンの促進にも寄与するのではないかと考える。県民参加型の魅力再発見の取り組みや、教育・企業・地域と連携したシビックプライド醸成の施策等の検討にも期待する。
- ・富山の寿司以外に、「ヘルスケアバレー」についても力を入れて欲しい。
- ・放課後児童クラブの整備など、小中学生を抱える家庭にとって心強い施策が進んでいることをありがたく感じている。一方で、KPI122「いじめの解消」や KPI114「児童生徒の朝食欠食」などの指標がいまだ「要努力」である点については、家庭・地域の力不足も痛感しており、私たち親自身も向き合っていかなければならない課題であ

ると反省している。今後の「親学び」や「こどもの居場所づくり」が、様々な、特に孤立しがちな家庭の支えとなるよう、より一層現場の声に寄り添った支援となることを切に願っている。

- ・これからも新たな視点で「住みたい県、住み続けたい県」となるよう取組みを推進してほしい。
- ・今後の施策方向性の一つとして、富山県内に生まれ育った子どもたち、そして大人も富山県に誇りを持ち、好きな人が増えることが大切だと思う。KPI54「県内に自信を持って誇れるものがたくさんあると思う人の割合」の目標値・実績ともにあまりにも低い数値で残念である。子どものうちから、「誇り」と「実感」がセットになり、“富山が好き”を一生モノになるような施策が多くあってもよいのではないかと思う。
- ・KPIに関して、例えば KPI78「とやま起業未来塾修了生の創業等済率」など、過去の事業についてどこまで評価が続き、今の新しい事業に切り替わって数値化などされているのかが気になった。